

ソーシャルワーク、教育および社会開発に関する合同世界会議

2014年メルボルン大会報告

国際関係委員会 大和三重

本会議は、国際社会福祉教育学校連盟（IASSW）、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）および国際社会福祉協議会（ICSW）の3団体による2年に1度開催される合同会議で Melbourne Convention & Exhibition Center で2014年7月9日～12日に行われた。世界78か国からの参加者を得て、1000人以上による報告（口頭発表とePoster）があり、日本からは23題の報告、70名余りの参加があった。大会のテーマは「社会的経済的平等の推進ーソーシャルワークと社会開発による対応ー」であった。開会式に次ぐ基調講演は「気候と災害に対する社会とジェンダーの影響ーソーシャルワークの対応ー」と題して行われ、エコロジカル・ソーシャルワークの必要性が語られた。本会議場での公開講義は「社会的文化的ウェルビーイングを強化するーオーストラリアの固有民族（indigenous）のリーダーの視点ー」について行われ“indigenous”の視点を重視する必要性が示唆された。また、本大会中に行われたIASSWおよびIFSWの総会でソーシャルワーク専門職のグローバル定義の改定が承認された。2000年の定義との違いとして、新定義では「集団的責任」や「地域・民族固有の知」という文言が加わり、またこの定義を各国および世界の各地域の事情に合わせて展開することができるようになった。これを受けて各国、各地域での固有の定義が策定されていくものと思われる。

IASSWの理事会は本会議前の7月8日から9日および最終日の12日に開催された。理事会では会長および書記の報告が行われ、会員は2014年6月1日の時点で389、個人217、関係団体（affiliate）5の合計611（2013年は507）となっている。加盟校を地域別で見ると、アジア太平洋が202校（52%）で最も多く、次いでヨーロッパ・中東81校（21%）、および北米・カリビアン81校（21%）となっている。また国別では日本が最も多く85校で22%を占め、次いでアメリカ63校（16%）、中国56校（15%）となっている。一方、個人会員では北米・カリビアンが102人（47%）と5割近くを占め、次いでアジア太平洋67人（31%）、ヨーロッパ・中東28人（13%）で、国別ではアメリカが89人（40%）と最も多く、次いでインド55人（25%）となっており、日本からの個人会員はいない。IASSWとしては、学校・機関ではなく個人で加盟することへの問題も指摘されているところであるが、理事会では、さらなる会員数の増加を促す方策が話し合われると同時に予算不足を解消するために会費の値上げが提案され、承認された。加盟校については10%の値上げが2015年度より適応されることとなった。7月11日に行われたIASSWの総会では新定義の承認の他、2014年度の選挙の結果、財務担当にMark Henrickson氏（ニュージーランド）、理事会メンバーにLinda Kreitzer氏（カナダ）、Hernando Munoz Sanchez氏（コロンビア）が其々選出されたこと、各地域および各委員会活動等が報告された。

なお、次回2016年の合同世界会議は韓国ソウルで開催される予定である。